



一般社団法人  
宮城県理学療法士会  
ニュース 2016 No.2  
(通巻158号)

目次

巻頭言	1
宮城県リハビリテーション専門職協会 設立記念式典・講演会開催報告	2
宮城県リハビリテーション専門職協会 交流会開催報告	3
社会局からの活動報告	4
財務局からのお知らせ	5
会員状況のお知らせ	5
第14回日本神経理学療法学会学術集会報告	6
第24回日本物理療法学会学術大会を 終えるにあたり	7
第20回宮城県理学療法学術大会	8
第5回日本運動器理学療法学会 学術集会のお知らせ	9
宮城県理学療法士会 平成28年度県南地区研修会	10
太白・名取地区主催 脳卒中者の歩行再建を考える会 第2回	11

## 巻頭言

新年明けましておめでとうございます

さて、2017年を迎え会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。総合事業への完全移行、1年後の医療・介護報酬同時改定を控え、私たち理学療法士を取り巻く情勢は予断を許さない状況です。現在、厚生労働省で理学療法士に関わるいくつかの検討会が進められています。介護予防研修カリキュラム検討会、在宅医療推進に係る全国在宅医療会議、理学療法士の学校教育に係る指定規則検討会、人員不足職種の緩和等を検討する医療職養成カリキュラム検討会、理学療法士養成数等の需給検討会などがそれです。この中では、リハビリテーション関連職種の中で、理学療法士の需給が多い状況が報告されています。平成28年2月時点での理学療法士養成校の数は253校で、定員13,595名です。いずれの検討会でも、適正数の配置と適正量のサービス提供、適正な質の確保に向けて検討がなされており、その動向からは目が離せません。10万人となる理学療法士が「量」だけでなく「質」の面でも、地域包括ケアシステムの中でその存在感を示していくことは私たちの職域を維持・拡大していくためにも必須です。地域包括ケアシステムは、その実現のためにビジネスモデルとして分断されていた医療・介護・リハビリ・保健・予防・福祉・生活・住居といった領域を一人の高齢者をキーワードに結び付けていかなければなりません。各領域の融合・プロセスのデザイン～それらのマネジメントにはイノベーションの担い手であるアントレプレナーとイントラプレナーの存在が欠かせません。もともと急性期医療から在宅での生活期リハビリテーションを通して他職種との連携、地域資源の活用を行ってきた私たちだからこそ出来るオピニオンリーダーとしての働き、それこそ今社会の中で求められている私たち理学療法士の資質でしょう。

新たな年を迎え、新たな可能性に向けて、さらなる躍進を目指していきましょう。

一般社団法人宮城県理学療法士会 副会長  
藤野隆喜

## 宮城県リハビリテーション専門職協会

### 設立記念式典・講演会開催報告

平成 28 年 10 月 1 日に宮城県リハビリテーション専門職協会設立記念式典・講演会が開催されました。当日は宮城県副知事の山田様をはじめとし 30 名の来賓の方々にご臨席頂きました。

御祝辞を頂きました山田副知事からは「病気や障害がある方々を含め、多くの高齢者が積極的に社会に参加し、互いに支え合いながら地域づくりを推進するためには、リハビリテーション専門職の協力が不可欠だ。各療法士の専門性を持ち寄り、市町村が実施する介護予防や認知症対策等の事業にワンストップで支援できる体制が整備されたことは大変意義深い」と期待と歓迎のお言葉を頂きました。

当日、運営にご協力頂きました県士会員の皆様方、ありがとうございました。



(左から 渡邊好孝会長 山田副知事、遠藤副会長 道又副会長)

宮城県リハビリテーション専門職協会  
事務局長 櫻井 健太郎

## 宮城県リハビリテーション専門職協会 交流会開催報告

平成28年10月1日に宮城県リハビリテーション専門職協会交流会が開催されました。交流会には総勢50名の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の先生方にお集まりいただき、盛会に終えることが出来ました。

当日は日本作業療法士協会の中村会長にもお越し頂きお言葉を頂戴いたしました。今後も宮城県リハビリテーション専門職が良い繋がりをもてるような機会を作っていきたいと考えております。

当日、交流会に御参加頂きました県士会員の皆様方、ありがとうございました。



(日本作業療法士協会 中村会長)

宮城県リハビリテーション専門職協会  
事務局長 櫻井 健太郎

## 社会局からの活動報告

仙台市介護予防月間に参加しました

社会局長 阿部 功

社会局介護予防推進部は、オリジナルの介護予防体操「元氣もりもり頑張っぺ体操」を作成し、7月に開催した「全国統一介護予防・健康増進キャンペーン」でお披露目しました。この体操を中心に、体力測定と個別相談、講演を組み合わせ、各地の介護予防事業に参加しています。11月は仙台市の「介護予防月間」です。今年度も、宮城県理学療法士会はこれを後援すると共に、以下の内容で介護予防推進部を中心に各種イベントに出展しました。

「伊達の元氣力 UP フェスティバル」

【活動内容】運動機能チェックブース出展

介護予防教室(元氣もりもり頑張っぺ体操と認知症に関する講話)

【参加部員】7名 【参加者数】ブース 97名、教室 12名

「広瀬市民センター・みんなで学ぼう!ひろせ塾」

【内容】介護予防教室(元氣もりもり頑張っぺ体操と認知症に関する講話を中心に)

【参加部員】2名 【参加者数】19名

「松森市民センター・豊齡力アップ!認知症予防体操教室」

【内容】介護予防教室(元氣もりもり頑張っぺ体操と認知症に関する講話を中心に)

【参加部員】3名 【参加者数】60名

「宮城県栄養士会・いい日いい汗栄養まつり」

【内容】運動機能チェックブース出展、元氣もりもり頑張っぺ体操

【参加部員】8名(内、会員ボランティア1名) 【参加者数】94名

今年度の仙台市介護予防月間は、サブテーマが「認知症予防」でした。各イベントでは運動機能向上に関する内容だけでなく、認知症についての講演や、多重課題を取り入れた運動を実施し、参加者からは好評を博しました。

地域包括ケアシステム構築の一環として、介護予防・日常生活支援総合事業の中に「地域リハビリテーション活動支援活動」が創設されました。地域における介護予防を含めた活動を強化するために、理学療法士等の関与を促進する仕組みが整えられつつあります。その中で、29年度、30年度と、総合事業に関する動きが市町村単位で急速に活発化する事が予想され、私たち理学療法士にかかる期待は膨らんでいます。

介護予防推進部では、いつでも部員を募集しています。各地域内・地域間の情報共有を図るためにも、一緒に活動してみませんか? 各種事業に直接参加できなくとも大丈夫です。興味のある方は、メールにてご連絡下さい。

E-mail: miyagi.kaigoyobou.pt@gmail.com (担当:菅野)

## 財務局からのお知らせ

### 会費納入のご案内

会費納入につきましては、楽天カードが基本となります。申込をされていない方や、すでに楽天カードをお持ちの方で登録をされていない方は日本理学療法士協会ホームページ内、マイページよりご登録をお願いいたします。速やかな会費納入のため、ぜひご協力をお願いいたします。

新入会員につきましては、入会手続き後、入金が確認されましたら、入会となります。

また、9月末日時点で会費未納の方(新入会員を除く)につきましては、協会よりコンビニ振込用紙が送付されております。ご確認の上、早めの納入をよろしくごお願いいたします。

なお、下記納入方法の手続きにつきましては、協会ホームページ内、マイページにてご確認いただくか、日本理学療法士協会事務局までお問い合わせください。

会費：一般会員 ￥20,000-

(内訳 協会費 ￥11,000- 士会費 ￥9,000- )

新入会員 ￥19,000-

(内訳 入会金 ￥5,000- 協会費 ￥5,000- 士会費 ￥9,000- )

納入方法：①楽天カード：毎月27日に引落し

②口座振替：毎月27日に引落し

③振込：協会より振込用紙を送付

### 問い合わせ

宮城県理学療法士会 財務局長 新山 正都

医療法人宏誠会 大和町たかはし整形外科クリニック

TEL:022-239-2777 FAX:022-239-2778

Mail:m.niiyama@y-t-seikei.com

## 会員状況のお知らせ

会員数 1539人(施設所属会員 1269人・自宅会員 197人・休会者 73人)

施設数 293施設

平成28年度新入会・異動状況

新入会者 106人

異動状況

県内異動 249件・転入 29件・転出 23件・休会 7件・任意退会 6件

休会超過・会費未納退会 8件

\*重複あり

(平成28年1月20日現在)

### 会員管理班からのお知らせ

会員管理からのお知らせ ～異動届等の提出について～

先に日本理学療法士協会から示されているとおり、書面による申請は平成25年12月をもって廃止となり、平成26年1月からはWeb申請のみの受付となります。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

WEB環境が整わず申請が困難な場合など異動届に関してのお問い合わせは以下のアドレスにメールにてお願いいたします。

宮城県士会会員管理 membership@pt-miyagi.org

## 第14回日本神経理学療法学会学術集会 報告

第14回日本神経理学療法学会学術集会  
準備委員長 村上 賢一

秋の風が厳しい仙台にて、第14回日本神経理学療法学会学術集会が開催されました。参加者は、分科学会史上初めて1000人を超え、会場の仙台市民会館を埋め尽くしました。メイン会場の大ホールは座席に空席がないほどであり、熱気によって冬が近いとは感じられませんでした。そのようななか、無事に終わられたのは、携わってくださった宮城県理学療法士会会員の運営スタッフ皆様のご尽力と対応力であり、準備委員一同、厚く御礼を申し上げます。

さて、今回のテーマは「脳卒中理学療法最前線」と致しました。その“最前線”を語る上で、初めに道免和久先生より基調講演「脳卒中リハビリテーションのパラダイムシフト」をご講演いただきました。この領域の第一線でご活躍されている先生の貴重なお話でしたが、私個人は運営上の問題で拝聴することができず、残念で仕方ありません。拝聴することができた方は幸運でした。…話が逸れてしまいましたが、そのほかにも「歩行トレーニング」「高次脳機能」「Neuromodulation tool」「下肢装具の地域連携」など、多彩な最前線の話題を提供させていただきました。どの内容も反響がよかったと伺っております。

また、参加者数とともに画期的であったのは、発表演題数です。企画の段階では100演題を目標といたしましたが、発表演題数は183題（口述52題、ポスター131題）と大幅増でした。近年の応募演題の増加は目を見張るものがありましたが、この数は驚異的です。理学療法士としての学術的発展や技術の研鑽を目指す気持ちの現れとし、喜ばしく感じられました。今後さらに、研究活動に取り組む理学療法士が増え、より発表は当然のものとして位置づけられることを切に願うところです。

最後に、2年間の準備期間を経て開催された第14回日本神経理学療法学会学術集会でしたが、発表演題数の増加や様々な変更・追加など、準備委員や運営スタッフの先生方には、無理を強いてしまいました。そして、準備や学会当日含め、それを支える宮城県理学療法士会の皆様のお力添えがあったからこそ終わられました。すべての皆様に、心からの感謝を申し上げます。

会期：平成28年11月26日（土）～27日（日）

会場：仙台市民会館

テーマ：「脳卒中理学療法最前線」

学術集会長：阿部浩明（広南病院）

参加者：1038名

演題数：183題



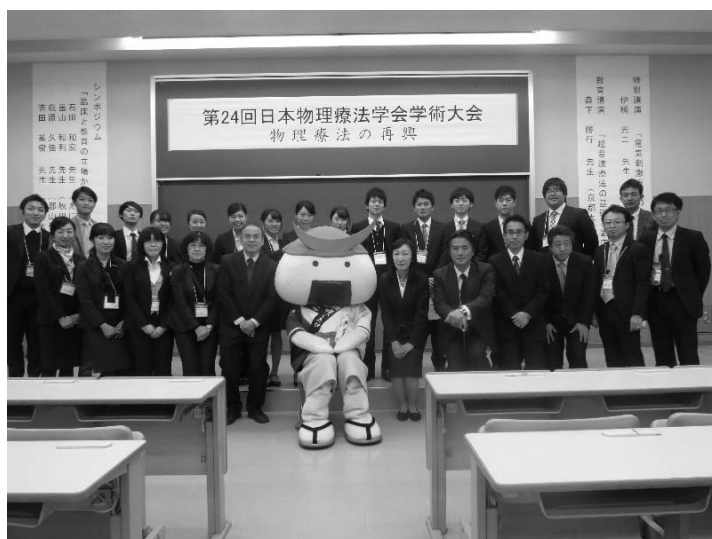
## 第24回日本物理療法学会学術大会を終えるにあたり

平成28年11月5日(土)から6日(日)の2日間にわたり、東北文化学園大学を会場に第24回日本物理療法学会学術大会(主催:日本物理療法学会、共催:日本理学療法士学会物理療法部門)が開催されました。横塚美恵子大会長のもと、東北文化学園大学理学療法学専攻の教員並びに有志学生を中心に運営に携わり、県内外より160名を超える多くの参加者をお迎えすることが出来ました。

今大会のテーマは「物理療法の再興」であり、臨床での物理療法の広い活用を願い、電気刺激療法の適応と可能性について山形県立保健医療大学の伊橋光二先生に、教育講演では超音波療法の基礎と臨床応用について京都大学大学院の森下勝行先生にそれぞれご講演を賜りました。また、シンポジウムでは、「臨床と教育の立場から物理療法を考える」と題し、卒前・卒後教育の課題についてシンポジストの先生方(えにわ病院 石田和宏先生、秋田大学医学部附属病院 畠山和利先生、郡山健康科学専門学校 荻原久佳先生、弘前大学 吉田英樹先生)よりそれぞれのお立場から現状の問題とその改善策についてご提言を頂きました。また、演題発表は3題の助成研究演題並びに27題の一般演題が登録され、それぞれの会場において活発な議論がなされました。大会会期中は計9社の企業様より物理療法機器の展示並びに企業プレゼンテーションを行って頂きました。各企業ブースとともに、大会参加者が手軽に物理療法機器を体験できるよう展示頂き、こちらも大変熱気を帯びた内容でした。このような中で、2日間の学術大会を盛況のうちに閉会することが出来ました。

最後に、大会運営にあたり多くの関係者並びに関係企業様よりご支援を賜りました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

(第24回日本物理療法学会学術大会 準備委員長:鈴木誠)



(仙台・宮城観光 PR キャラクターのむすび丸が学術大会に遊びに来てくれました)



## 第20回宮城県理学療法学会大会

平成29年2月5日(日)、東北文化学園大学にて第20回宮城県理学療法学会大会が開催されます。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

大会テーマ:

エビデンスに基づく理学療法

ー臨床での理学療法診療ガイドラインの活用ー

シリーズ第1回 肩関節周囲炎、心大血管疾患、COPD

### 第20回記念基調講演

「仕事と習慣」

渡邊 好孝 大会長

医療法人社団光友会アルパイン川崎

地域包括ケア推進部部長

医療法人松田会リハビリテーション部顧問

医療法人松田会人材育成部顧問

### 講演

「理学療法診療ガイドラインの見かた」

鈴木 誠 先生 東北文化学園大学

「肩関節周囲炎 理学療法診療ガイドライン」

村木 孝行 先生 東北大学病院

「心大血管疾患、COPD 理学療法診療ガイドライン」

高橋 一揮 先生 東北文化学園大学

### 特別講演

「特別支援学校での理学療法士と自立活動教諭の役割

～障がいのある子どもの豊かな生活をめざして～」

古川 章子 先生 北海道手稲養護学校

(第20回宮城県理学療法学会大会準備委員長:青木 和人)

## 第5回日本運動器理学療法学会学術集会のお知らせ

テーマ:運動器障害をどう捉え、アプローチするか

会場:札幌市教育文化会館(住所:札幌市中央区北1条西13丁目)

会期:2017年9月23日(土曜日)13時~19時

9月24日(日曜日)10時~17時

学術集会長:対馬 栄輝(弘前大学)

学術副集会長:山崎 肇(羊ヶ丘病院)

準備委員長:石田 和宏(えにわ病院)

概要:運動器障害に対する理学療法は障害を捉える考え方に変遷しており、現在までそのパラダイムチェンジの概念について話題提供してきた。本学会では、その後どう展開するべきかについて提案をしたい。具体的には障害部位によるアプローチと、全体障害像に対するアプローチの融合を試みて、今後の運動器理学療法発展のきっかけとするつもりである。

主催:日本運動器理学療法学会、徒手理学療法部門、  
ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門

プログラム:特別講演、シンポジウム、一般演題、症例検討

演題募集期間(予定):5月23日~6月23日

問い合わせ:我汝会えにわ病院 リハビリテーション科

reha@eniwa-hosp.com 石田和宏

## 宮城県理学療法士会 平成28年度県南地区研修会

日時：平成29年2月25日(土) 13:00 ~ 17:30 (受付12:30~)

会場：みやぎ県南中核病院 講堂

テーマ：生活期脳卒中片麻痺者の下肢装具療法と地域連携について

- 講演1:「生活期脳卒中片麻痺者の下肢装具療法と医師が求める療法士のあり方」(90分1コマ)  
講師：瀬田拓先生(みやぎ県南中核病院リハビリテーション科 リハビリテーション専門医)
- 講演2:「生活期脳卒中片麻痺者の下肢装具療法の実際と多職種連携の現状および展望」(90分1コマ)  
新人教育プログラム履修基準 C-1 神経系疾患の理学療法  
講師：芝崎淳先生(社会医療法人将道会 総合南東北病院リハビリテーション科主任 認定理学療法士(脳卒中))
- 講演3:「下肢装具の種類と機能-みて・ふれて・つかって-」  
講師：宮内博之先生(株式会社 佐々木義肢製作所 義肢装具士)  
芝崎淳先生  
新人教育プログラム履修基準 C-5 地域リハビリテーション

### \* 生涯学習履修ポイント

#### ➢ 2.神経理学療法専門分野 a 認定理学療法士(脳卒中)

瀬田先生には、片麻痺者への下肢装具療法と更生用装具の概念と役割について、また、理学療法士として更生用装具作成にどのように関わるべきか、判定に必要な情報と考え方に関してご講演いただきます。

芝崎先生には、生活期脳卒中片麻痺者の下肢装具療法の実際について、事例をあげながらお話いただき、県南地区を中心に取り組まれている、下肢装具を必要としている対象者をいかに救うか、そのシステムとネットワークづくりに関して現状と展望をご講演いただきます。

また、宮内先生とともに、下肢装具の紹介と実際の使用方法等に関して、参加者と実技形式で体験する時間を設ける予定です。

研修参加費:(事前申し込み)会員 500円 非会員 1,000円 (当日)会員 1,500円 非会員 3,000円

参加費は当日受付でいただきますので、お釣りがないようご準備ください。

申し込みは、日本理学療法士協会マイページからお願いします。地区外からの参加も可能です。

会員外は下記、問い合わせ先まで必要事項を入力の上メールにてお申し込みください。なお、携帯電話からの送信は避けてください。

お問い合わせ先

宮城県岩沼市里の杜1丁目2-5 社会医療法人将道会 総合南東北病院 リハビリテーション科 安孫子 洋  
電話 0223-23-3151(代)

Email [reha@minamitohoku.jp](mailto:reha@minamitohoku.jp) 件名を「平成28年度県南地区研修会」とし、参加申し込みの場合は、本文中に①氏名、②所属、③職種 を入力してください。

## 太白・名取地区主催

### 脳卒中者の歩行再建を考える会 第2回

日時:2017年3月18日(土) 12:30 ~ 16:30(12:00 受付開始)

会場:広南病院 東北療護センター2階 討議室

仙台市太白区长町南 4-20-6(地下鉄「富沢駅」下車 徒歩6分)

※公共交通機関をご利用下さい。会場は12:00から使用可能となります。早く来場しても入場できません。

参加費:(PT会員)1,000円 (PT非会員、他職種)2,000円 定員:80名

PT会員の方は協会カードを忘れず持参して下さい。

単位認定:【C-1(神経疾患の理学療法)】【脳卒中認定理学療法】

座長:阿部 浩明 氏(広南病院)

12:30~13:30 特別講演①「脳卒中片麻痺患者の歩行の特性」

講師:関口 雄介 氏(東北大学病院)

13:40~14:40 特別講演②「下肢装具は地域を繋げるか?~医師の立場から~」

講師:藤原 大 氏(坂総合病院)

14:50~15:50 特別講演③「宮城県東部の脳卒中者における下肢装具療法と地域連携の現状と課題  
~理学療法士の立場から~」

講師:渡辺 康介 氏(在宅支援チーム フォーレスト)

16:00~16:30 症例報告①「脳卒中片麻痺患者における装具の違いによる足圧中心の軌跡の特徴」

発表者:石山 歩 氏(仙台リハビリテーション病院)

症例報告②「下肢運動麻痺が軽度にも関わらず麻痺側遊脚期の膝伸展不全がみられた  
listing phenomenonを伴った脳卒中例に対する理学療法経過」

発表者:上松野 真 氏(広南病院)

申込:参加者は必ず事前申込をして下さい。電子メールにて件名を「3月18日申込」とし、会員番号(8桁)・氏名(フリガナ)・生年月日(西暦)・所属施設・経験年数を記載し、下記アドレスまでお申し込みください。

申し込みの受け付けは事務局からの返信メールをもって完了となります。

必ずPCからのメールを受信できる状態に設定して下さい。

**研修会参加の申し込み締め切りは3月15日(水)午前中迄とさせていただきますので厳守して下さい。**

太白・名取地区研修会 事務局 辻本直秀 宛

e-mail:reha\*kohnan-sendai.or.jp(\*を@に変えてお申し込み下さい)

TEL:022-248-2131(内線501)広南病院リハビリテーション科

## 平成28年度 宮城県理学療法士会 役員名簿

部局		氏名	勤務先	
理事	会長	渡邊 好孝	医療法人松田会	
	副会長 (社会・地区担当局担当)	三浦 幸一	国立病院機構宮城病院	
	副会長 (事務・財務・事業局担当)	藤野 隆喜	東北労災病院	
	副会長 (学術・教育局担当)	黒後 裕彦	東北文化学園大学	
	副会長 (委員会担当)	榊 望	仙台リハビリテーション病院	
	理事	事務局担当	高橋 利幸	介護老人保健施設 エバグリーン・イズミ
	理事	事業局長	櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院
	理事	財務局長	新山 正人	大和町たかはし整形外科クリニック
	理事	学術局長	村上 賢一	東北文化学園大学
	理事	教育局長	高橋 一揮	東北文化学園大学
	理事	社会局長	阿部 功	総合南東北病院
監事	地区担当局長	坪田 朋子	自宅	
	監事	田中 文男	自宅	
	監事	永井 淳一	自宅	
事務局	総務部	総務班(部長)	高橋 利幸	介護老人保健施設 エバグリーン・イズミ
		会員管理班	加藤 佐市	仙台市南部発達相談支援センター
	広報部	渉外班(部長)	渡邊 広枝	東北労災病院
		広報班	佐々木友也	仙台リハビリテーション病院
事業局	公益事業管理部 士会事業管理部	部長	櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院
財務局	会計部 (部長)	古山 智子	仙台青葉学院短期大学	
学術局	学術大会部 (部長)	鈴木 誠	東北文化学園大学	
	専門領域研究部	神経系研究会(部長)	村上 賢一	東北文化学園大学
		骨・関節系研究会	坂上 尚穂	仙台青葉学院短期大学
		内部障害系研究会	藤村 伸	東北医科薬科大学病院
		物理療法研究会	横塚美恵子	東北文化学園大学
教育系研究会	鈴木 誠	東北文化学園大学		
教育局	学術誌部 (部長)	高橋 一揮	東北文化学園大学	
	教育部 (部長)	阿部 玄治	東北文化学園大学	
	生涯学習部	生涯教育班(部長)	川上 真吾	東北文化学園大学
社会局	健康増進支援部 (部長)	千葉 涉	松田病院	
	介護予防推進部 (部長)	菅野 良	塩釜市立病院	
	医療保険部 (部長)	金子亮太郎	松田病院	
	介護保険部 (部長)	阿部 功	総合南東北病院	
地区担当局	県南地区	安孫子 洋	総合南東北病院	
	太白名取地区	高島 悠次	長町病院	
	青葉泉地区	坪田 朋子	自宅	
	宮城野若林地区	高島 悠次	長町病院	
	大崎栗原地区	門脇 敬	大崎市民病院鳴子温泉分院	
	石巻登米地区	福原 浩之	石巻ロイヤル病院	
	気仙沼地区	小野寺裕志	気仙沼訪問リハビリステーション	
常設委員会	災害支援対策委員会	坪田 朋子(委員長)		
	組織検討委員会	榊 望(委員長)		
	スポーツ医科学推進委員会	小野寺真哉(委員長)		
	3職種リハ振興委員会	阿部 功(委員長)		
	地域包括ケア推進委員会	榊 望(委員長)		
	政策検討委員	榊 望(委員長)		

特別委員会	選挙管理委員会		舟山 伸利	仙台赤十字病院	
			小石川紀男	杜都中央病院	
選出委員	日本理学療法士協会代議員		渡邊 好孝	医療法人松田会	
			榊 望	仙台リハビリテーション病院	
			藤澤 宏幸	東北文化学園大学	
			黒後 裕彦	東北文化学園大学	
			坪田 朋子	自宅	
	東北ブロック協議会	理事		渡邊 好孝	医療法人松田会
				榊 望	仙台リハビリテーション病院
		学術局学術大会部		小林 武	東北文化学園大学
		学術局機関紙編集部		芝崎 淳	総合南東北病院
		学術局教育研修部		川上 真吾	東北文化学園大学
事務局長		菊地 雅行	松田病院		

## 県士会ニュースおよびホームページへの掲載依頼について

県士会ニュースと県士会ホームページへ掲載を依頼される場合は、広報部広報班までご連絡ください。原稿は、WORDまたはテキスト形式を基本とします。PDFファイルへも対応は可能ですが、適切に印刷(掲示)されない場合があります。また掲載が適切ではないと判断された場合には、ご意向に添いかねることもありますのでご了承ください。

またご不明な点やご希望等ございましたら、下記までご連絡ください。

宮城県理学療法士会 広報部広報班

宛先：〒981-3341 黒川郡富谷町成田1丁目3-1

仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部 佐々木友也 石山 歩

TEL：022-351-8118 FAX：022-351-8126

E-mail: news.edit@pt-miyagi.org

次号県士会ニュース締切： 7月10日まで

発行日：平成29年1月27日  
 発行：宮城県理学療法士会  
 代表者：渡邊 好孝  
 編集：佐々木友也 石山 歩  
 印刷：合同会社P・プログレス  
 〒983-0021 仙台市宮城野区田子2丁目33-17



